

OTA 確認対象文献リストの確認に係る検討状況 (腫瘍形成の機序等)

OTA 確認対象文献リストのうち、腫瘍形成の機序等に係る項目については、既に担当専門委員、専門参考人による候補文献の抽出作業を終えたところであるが、これまでのかび毒・自然毒等専門調査会における他の毒性項目についての文献検討に係る審議や2014年1月評価書の記述内容を踏まえて、再度、体系的に整理を行うことについて、第60回かび毒・自然毒等専門調査会においてご同意いただいたところ。

今般、渋谷専門委員、石井専門参考人に確認対象文献リストの当該項目について検討頂いた結果、以下の方針に基づき再整理を行うこととなった。

in vitro 試験に係る知見については、科学文献としての信頼性に加えて、これまでに人や動物実験において OTA による影響が確認されている臓器や細胞に関して、その発現機序等を優先的に検討することが重要であると考えられたことから、2014年1月評価書において、OTA の標的とされている臓器や細胞を対象としてばく露を行った知見を中心に選別することとした。

各種知見を踏まえて、OTA の標的として考えらえる臓器を検討した結果、腎臓（ヒトを含む様々な動物種）、腎臓及び肝臓（マウスの高用量ばく露群）、前胃（ラット）、乳腺（ラット）、神経（マウス、ラット）、免疫器官（ヒトを含む様々な動物種）が対象となると考えられた。

※この他、OTA の詳細情報が不足する知見やデータの信頼性が疑わしい文献等については、再度確認を行い候補文献から除外